

群 教 セ	G01 - 02
	令6.287集
	国語一小

情報を整理し、読み手に伝わりやすい文章を書くことができる児童の育成

—情報整理シートの活用と交流活動の工夫を通して—

特別研修員 松本 真由美

I 研究テーマ設定の理由

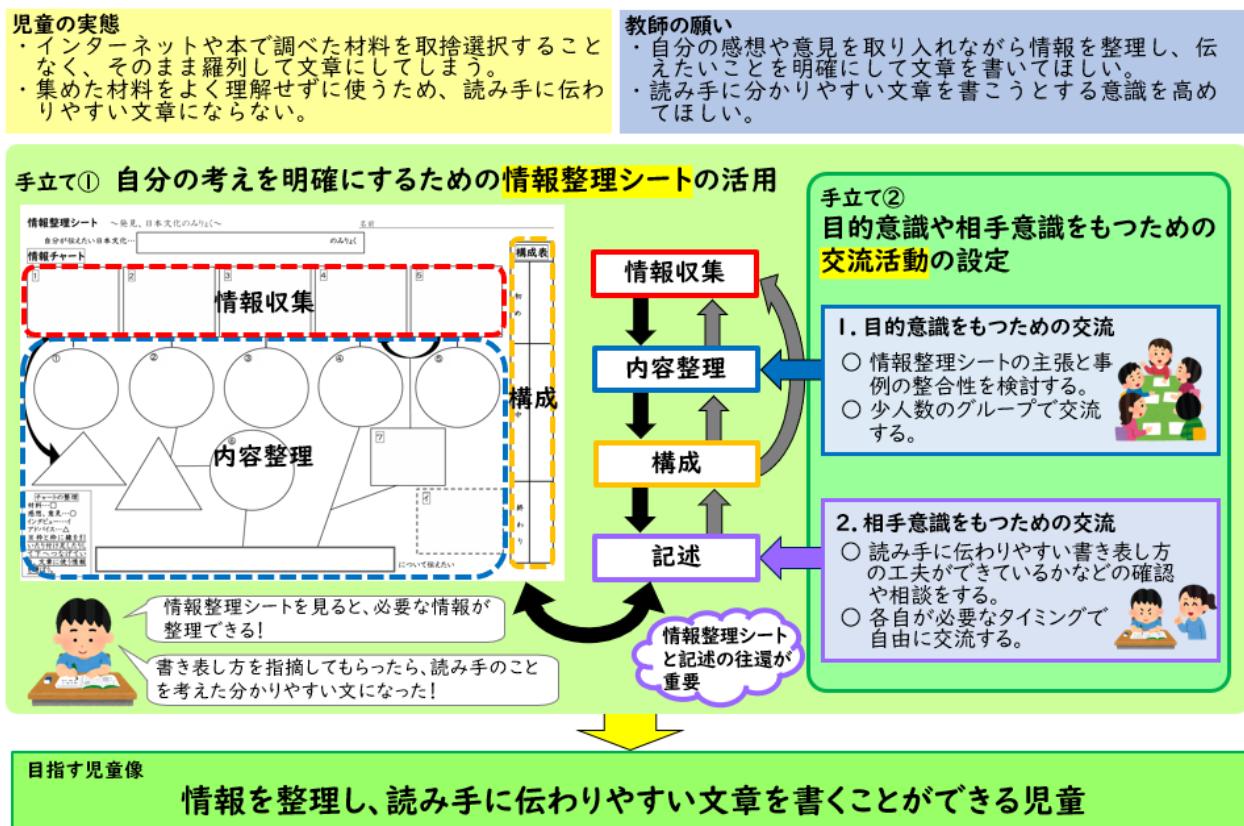
令和6年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、国語科において特に現れてほしい姿として「単元の課題解決に向けて、言葉に着目した吟味を重ねている」姿が挙げられ、自分の考えが明確になるように言葉の選び方を工夫する必要性が示されている。さらに、令和6年度全国学力・学習状況調査の国語科の結果では、研究協力校を含め、全国的に目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。

書くことにおいて研究協力校の児童は、意欲的に取り組むことはできるが、調べた材料を整理せずに書いたり、自分の意見や感想を取り入れずに材料のみをそのまま羅列して書いたりするため、自分の考えが明確にならない文章になってしまうことが課題である。

そこで、本研究では、情報整理シートを活用して材料と自分の意見や感想を整理し、最も伝えたいことを明確にするとともに、交流を通して主張と事例の整合性を検討したり、書き表し方の工夫を確認したりすることで読み手に伝わりやすい文章を書くことができると考え、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

書くことにおいて、児童が自分の考えを明確にし、より読み手に伝わりやすい文章が書けるよう、以下の手立てを設定する。

手立て1 自分の考えを明確にするための情報整理シートの活用

情報整理シートは大きく二つの機能をもつ。それは、集めた材料と自分の意見や感想などを整理しながら、最も伝えたいことを明確にするためのツールである情報チャートと、情報チャートの枠番号を記入して文章構成を考える構成表である。まず、情報チャートに、自分が決めた題材に必要な材料や、集めた材料ごとに自分の感想や意見が書けるような枠を設けておく。その後、主張が明確になるように、自分で情報チャートを整理し、思考が可視化されるようにする。具体的には、更に調べたいことを追加したり、類似情報をまとめたり、情報の取捨選択を行ったりして整理するように促す。また、構成の過程では、構成表に事実①や感想・意見①等、各枠に付けられた番号などを記入して文章の流れを可視化し、論の展開を簡潔に表すことができるようになる。さらに、記述の過程で、情報整理シートを見ながら書き進められるようにし、このシートを往還することで、主張が一貫した矛盾のない展開で文章を書くことができるようになる。

手立て2 目的意識や相手意識をもつための交流活動の設定

何を誰に伝えるのかということを意識できるように大きく2度の交流を行う。

1度目は内容整理の過程において、伝えたい主張が曖昧なものではないか、また、主張とその事例の整合性はあるかなどをアドバイスし合う交流である。似た題材の少人数のグループ、異なる題材のグループという2段階で交流することで多様な視点が取り入れられ、情報の取捨選択がしやすくなり、伝えたいことをより明確にできるようになる。

2度目は記述の過程において、読み手に伝わりやすい書き表し方か、最も伝えたいことが中心になつた文章になっているかを確認するための交流である。この交流では、他の人に意見を聞きたいときは、自由に相手を選んで相談できるようにする。情報整理シートと文章を見比べながら、事実と感想、意見が区別されているか、最も伝えたい部分は自分の考えを加えて詳しく書いているなどの工夫を確認することで、読み手を意識した、より伝わりやすい文章を書くができるようになる。

III 実践例

- 1 単元名 「書き表し方を工夫して、日本文化のみりょくを伝える文章を書こう」
教材名 「発見、日本文化のみりょく」光村図書（第6学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編の第5学年及び第6学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を重点指導事項として設定したものである。

本単元では、来日している外国人に向けて、自分が伝えたい日本文化の魅力について、書き表し方を工夫しながら文章を書く活動を設定する。情報整理シートを活用した情報整理や、目的意識や相手意識をもつための交流を通して、読み手に伝わりやすい文章を書くことができるようになる。

以上のような考え方から、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。(知識及び技能) (2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうしている。(学びに向かう力、人間性等)
----	---

評価規準	(1) 日常に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。 (2) 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (3) 進んで書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって日本文化の魅力を伝える文章を書こうとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ALTの母国の伝統文化の紹介を聞き、日本文化について考える。 教科書の例文を読み、作者がどんな工夫をしているかを捉える。 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 興味がある日本文化を選ぶ。 修学旅行で、選んだ題材について外国人にインタビューし、現状を把握する。
追究する	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットを使って、選んだ日本文化に関する情報収集を行う。 集めた材料ごとに感想や意見を情報チャートに記述する。
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 情報チャートを整理し、自分が最も伝えたい魅力が何かを考える。 数名のグループで自分が整理した情報チャートを説明し、主張が曖昧でないか、主張と事例の整合性はあるかななどをアドバイスし合う。 アドバイスをもとに、情報チャートを再度整理する。
	第4～6時	<ul style="list-style-type: none"> 前時のアドバイスを生かして、補足する情報があれば調べたり、意見を追加したりしながら情報チャートを整理する。 事実と感想、意見とを区別したり、詳しく書く部分を考えたりしながら構成表に情報チャートの枠番号を記入する。 情報整理シートを見ながら、書き表し方を工夫して紹介文を文書作成ソフトで書く。 各自が必要なタイミングで友達と自由に交流し、書き表し方の工夫ができているかなどを確認、相談する。
まとめる	第7時	<ul style="list-style-type: none"> 書き表し方の工夫に着目しながら書いた文章を異なる題材の数名で読み合い、よいと思ったところを伝え合う。 単元全体を振り返る。

3 授業の実際

本時は全7時間計画の第3時に当たる。

(1) 前時

前時に、各自が魅力を伝えたい日本文化として選んだ題材について、本やインターネットを利用して情報収集を行い、集めた材料について自分の感想、意見を情報チャートに記入した。

(2) 本時

まず、前時までに書いた情報をよく吟味し、補足、似ている情報同士の集約、まとめた情報から考えられる自分の意見の追加、情報の取捨選択などを行い、選んだ題材について自分が最も伝えたい日本文化の魅力とそれを支える事例について考えた。

次に、内容整理の過程において、自分が考えた伝えたい魅力は曖昧なものではないか（図1）、最も伝えたい魅力とその事例の整合性はあるか（図2）などを、多様な視点で確認するために、少人数の似た題材のグループ、異なる題材のグループという2段階で交流し、アドバイスし合った（図3）。

C2：伝えたい魅力の「お城の昔ながらの造り」ってどういう造り？
C1：戦いに備えるための造りのこと。
C2：じゃあ昔ながらじゃなくて、そう書いた方が分かりやすいと思うよ。
C3：確かに、戦いに備えるためとか対抗するための造りの方がいいかもね。
C1：なるほど。それなら私が伝えたい魅力は、「お城の昔からある戦いに備えるための造り」ってことだね。

C2：食べる人の気持ちを大切にするってどういうこと？
C1：バランスよく健康的な献立だったり新鮮な食材を使ったりしているということだよ。
C3：それなら、このみずみずしいっていう事例は合わないかもね。
C1：そうだね。もっと伝えたいことに合う事例を見付けよう。

図1 魅力が曖昧でないか話し合う場面

図2 魅力と事例の整合性を話し合う場面



図3 内容整理の交流



図4 情報整理シート

交流後に、次時の活動への見通しをもつため、情報整理シートを活用して情報の再整理、追加の情報収集、文章構成など、自分に必要なことを考えて決める時間を設けた（図4）。

(3) 本時後（第4時～第6時）

第4時から第6時は、各自が必要なタイミングで自由に相手を選び、読み手に伝わりやすい表現や、最も伝えたいことが中心になっているかを確認、相談しながら文章を記述した。交流の方法も児童が自分で選択できるように設定したことにより、ペアや少人数のグループを作ったり、一度だけでなく何度も相談したりしながら、自分の進度に合わせて記述を進めていた（図5）。その際、多くの児童が文章と情報整理シートを見比べ、目的意識や相手意識をもって文章を修正、作成していた。（図6）。



図5 記述の交流

C1：魅力が伝わる文章になっているかな。
C2：この事例の説明は長いから、自分の考えと調べたことが分かりづらくなっているよ。しっかり分けて書いた方がよいかもね。それに、自分の考えをもっと加えると分かりやすいかも。
C1：なるほど。ここはいちばん伝えたい部分だから、もっと自分の考えを入れた方がいいね。情報整理シートを見直して、もう一度整理してから書いてみるよ。

図6 書き表し方の工夫を確認する交流場面

(4) 考察

今回の授業実践では、情報整理シートを単元の様々な過程で活用し、自分の考えが明確になるように進めてきた。記述の過程では、調べた材料、それに関する自分の感想や意見、友達からの質問など、整理された情報チャートと、一目で文章構成が分かる構成表を同時に見ることができたため、容易に書き進めることができたと思われる。情報整理シートを活用して記述した文章は、情報を並べただけではなく、自分の考えが多く盛り込まれた読み手を意識した文章となった。また、交流においては、友達からの質問や指摘を通して、友達の意見を取り入れながら相手意識をもった文章が書けていた。児童の振り返りを見ても、読み手を意識して文章を書けるようになった児童の姿が多く見られた（図7）。

以上のことから、本研究で行った二つの手立ては有効であったと考えられる。

○文章を書く前に情報整理シートで整理したり、友達と確認し合ったりしたことで、文章が上手に書けた。
○情報整理シートがあったので、文章が上手にまとめることができた。でも、相手に伝わりやすいかを考えながら書くことは難しかった。これからは読み手のことをよく考えて書けるようになりたい。
○文章を書くときは、情報を整理し、構成を考え、工夫を入れて書くと相手にも伝わりやすく、よい文が書けると分かった。これからは、今回の学習を生かして文章を書いていきたい。

図7 児童の振り返り

IV 研究のまとめ

1 成果

情報整理シートに集めた材料と自分の感想や意見を区別して記入したり、友達からの質問などを加えたりして整理することで思考が可視化され、自分が伝えたい主張が明確になっていた。そして、情報を理解した上で取捨選択をし、集めた材料を並べただけではない自分なりの文章を書こうとする姿が見られた。交流活動においては、主張と事例の整合性を検討したり、主張が曖昧でないかを確認したりする交流を設定したことで、自分の伝えたいことを明確にすることができた。また、記述の過程で自由な交流を設定したことで、読み手に伝わる文章になっているか、書き表し方の工夫ができるかなどを確認しながら記述を進める児童の姿が多く見られた。

2 課題

友達のアドバイスを自分の文章にうまく取り入れられない児童が見られた。効果的な交流になるよう、アドバイスをメモに残して検討するよう言葉掛けをしたり、交流する相手を意図的に促したりする必要がある。